

地域が学び、見守り・支える活動

福祉会だより

令和6年1月号No. 5

羽島市社会福祉協議会事務局

令和6年1月5日発行



昔からのつながいを

沖南福祉会

沖南福祉会は、区の役員やその経験者、民生委員が2か月に一度、10名ほど集まり、話し合いや学習活動をしています。

☆11月の活動の様子☆

今回は認知症をテーマに話し合いが行われました。

初めに「最近の物忘れ」についてメンバーで出し合い、それをもとに代表の渡邊さんから、認知症のチェックシートや新聞の記事、認知症に関する本、脳トレなどが紹介されました。

それらのお話のなかで、自動車運転免許証の更新に伴い、年齢が75歳以上の場合に受けなければならない認知機能検査の話や成年後見制度の話など、お話が広がりました。

渡邊さんは、「自分自身も認知症が怖いという思いがあること、地域に住んでいる人も自分と同じように認知症が怖いとっていたり、認知症についてよく知らなかったりする人がいるのではないか」と思い、今回認知症をテーマに福祉会活動を行った。今後も福祉会のメンバーと一緒に、認知症について理解を深められたらと思う

「と今後の活動についてお話されました。また、「この地区は子どもが少なくなっていることもあり、子ども会の活動が鈍くなっているように感じる。そのため、この福祉会活動を通して、“昔からのつながり”を作っていきたい」とお話されました。

認知症以外にもこんなお話がありました！



羽島市内の小学校で、あいさつ運動がされていることが紹介され、「あいさつを交わすことで、自分も子どもたちから元気がもらえる」と民生委員さんからお話がありました。



福祉会では、「①みんなで学ぶ ②ニーズを発見する・支える」を基本的な活動としており、羽島市内では現在(令和5年12月)21カ所で開催されています。

「福祉会だより」は共同募金の配分金により作成しました。